

佐賀県研究成果情報（平成 27 年度）

チャバネアオカメムシを対象として散布される薬剤の効果におよぼす降雨の影響					
[要約] <u>チャバネアオカメムシ</u> を対象とした <u>薬剤</u> の散布後に <u>降雨</u> に遭遇した場合、 <u>ネオニコチノイド系薬剤</u> より <u>合成ピレスロイド系薬剤</u> の効果が高い。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹虫害	対 象	カンキツ

[背景・ねらい]

チャバネアオカメムシなどの果樹カメムシ類の防除を的確に行うためには、使用する薬剤の効果におよぼす降雨の影響を把握する必要がある。これまで、数薬剤で耐雨性の試験が行われたが、カメムシ類の防除剤として使用されている薬剤の大半については検討されていない。そこで、本試験では、ネオニコチノイド系薬剤 5 剤及び合成ピレスロイド系薬剤 5 剤に対して、降雨が効果に及ぼす影響を調査し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 降雨に遭遇していない果実では、ネオニコチノイド系薬剤及び合成ピレスロイド系薬剤とも高い死虫率を示し、口針鞘数は少ない。（図 1、2）。
2. ネオニコチノイド系薬剤では、ジノテフラン水溶剤、イミダクロプリド水和剤及びチアメトキサム水溶剤は降雨量 50mm でも死虫率が低下する。また、果実上の口針鞘数は、降雨に伴い増加し、降雨量 150mm では無処理区の果実の 1/2 程度となる。
3. 合成ピレスロイド系薬剤は、ネオニコチノイド系薬剤と比較して死虫率及び口針鞘数に及ぼす降雨の影響は少ない。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験では、収穫期直前の露地栽培の上野早生を採取し、ハンドスプレーで薬剤を散布した。薬剤散布後、薬液が乾いた果実に人工降雨装置（大起理化工業(株)製、DIK-6000）を用いて 3 時間当たり 50mm の雨量で、50mm、100mm、150mm 及び 200mm の雨に遭遇させた。なお、チャバネアオカメムシは、室内で累代飼育し、試験直前の 2 日間、餌及び水を与えなかった成虫を供試した。
2. これまでの試験で、無降雨条件ではネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤ともに残効期間は 10～15 日程度であることが明らかにされている。
3. 合成ピレスロイド系薬剤は、ネオニコチノイド系薬剤と比較してミカンハダニに対するリサージェンスを起こしやすいので、散布後のミカンハダニの発生に注意する。

[具体的データ]

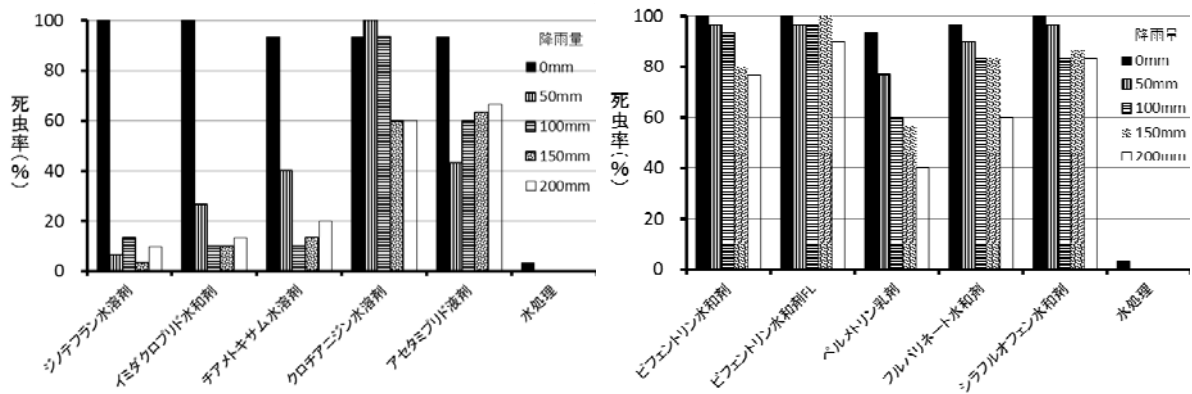


図1 降雨量がチャバネアオカメムシ成虫の死虫率に及ぼす影響
(左：ネオニコチノイド系薬剤、右：合成ピレスロイド系薬剤)

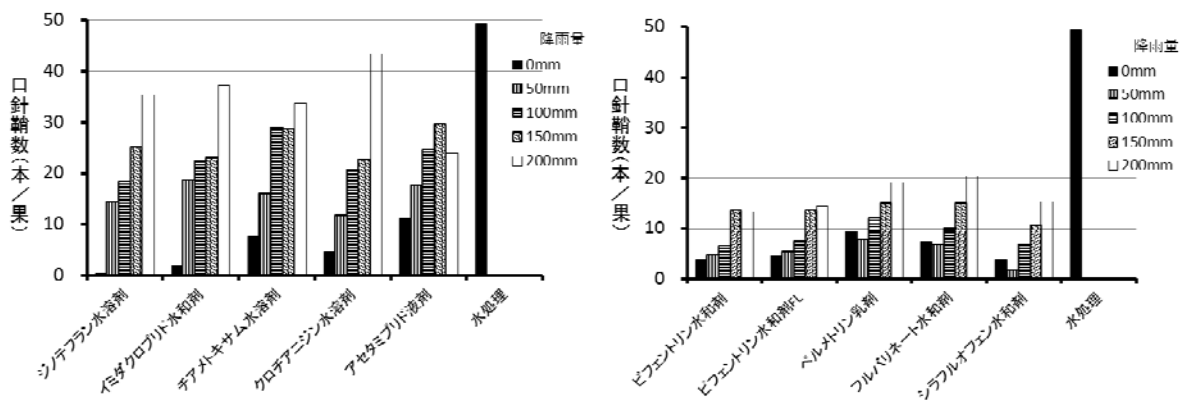


図2 降雨量がチャバネアオカメムシ成虫による口針鞘数に及ぼす影響
(左：ネオニコチノイド系薬剤、右：合成ピレスロイド系薬剤)

[その他]

研究課題名：果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2015年

研究担当者：口木文孝・白石祥子・野口真弓

協力・分担関係：なし

発表論文等：第91回九州病害虫研究会研究発表会（2016年春季大会）で口頭発表